

重要取組シート

消防局 救急部

取組項目		市民の生命を守る救急体制の充実
現状・課題		救急需要増大に対する救急対応について ・感染防止衣やマスク等の感染防止資器材が相当数必要のため、継続的に納入・備蓄しておくことが必要である。 ・高齢化の進展等により救急需要が増加し、救急医療機関の逼迫状況により入院先が決定せず、救急隊が長時間現場に留まり対応することがあるため、救急隊数を確保しておくことが必要である。
取組の内容		・感染防止資器材備蓄計画に基づき、救急隊等の感染防止資器材を整備する。 ・救急需要が増加すると予測される時期に、あらかじめ臨時救急隊を増隊配置するほか、突発的に救急需要が増加した際には直ちに臨時救急隊を編成する体制を構築する。 ・廃車予定であった救急車両を活用した搬送体制を整備する。 ・低緊急の転院搬送業務の一部を、民間救急事業者を活用し搬送できる体制を構築する。 ・救急告示医療機関の個別訪問や医療機関との各種調整会議等に参加し、円滑な救急搬送と受入体制につなげる。 ・「まちかど救急ステーション事業」を推進し、登録施設数を増加させる。 ・市民の方々に対して各種救命講習を実施する。 ・堺市消防局応急手当市民インストラクター制度を創設し、応急手当普及員による応急手当講習の実施を促進する。 ・「救急安心センターおおさか・＃7119」等を広く普及啓発する。
スケジュール	前期 (～7月)	☐ 令和6年度臨時救急隊編成計画の策定(4月) ☐ 「堺市消防局応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱」の一部改正(4月) ☐ 民間救急事業者を活用し搬送できる体制の整備(4月～) ☐ 必要な感染防止資器材の検討及び納入事務(4月～) ☐ 「まちかど救急ステーション事業」に参画いただいていないAED設置施設を個別訪問し、協力を依頼(4月～) ☐ 大学と連携し、GIS(地理情報システム)を用いて、救急隊到着前のAED使用実態及びAEDの有効な活用方法等を分析・研究(4月～)
	中期 (～11月)	☐ 泉北高速鉄道車内広告による救急広報を実施(9月) ☐ 祭礼時に臨時救急隊を編成(10月)
	後期 (～3月)	☐ 年末年始に臨時救急隊を編成(1月) ☐ 感染防止資器材の納入(～2月) ☐ 市民に対する各種救命講習を1万人以上に実施(～3月)
	次年度以降	☐ 感染防止資器材備蓄計画に基づく資器材の納入・備蓄(年度計画)

進捗の状況	前期 (～7月)	☐ 令和6年度臨時救急隊編成計画の策定(4月) ☐ 「堺市消防局応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱」の一部改正(4月) ☐ 民間救急事業者を活用し搬送できる体制の整備(4月～) ☐ 必要な感染防止資器材の検討及び納入事務(4月～) ☐ 「まちかど救急ステーション事業」に参画いただいていないAED設置施設を個別に連絡・訪問し、協力を依頼(4月～) ☐ 大学と連携し、GIS(地理情報システム)を用いて、救急隊到着前のAED使用実態及びAEDの有効な活用方法等を分析・研究(4月～)		
	中期 (～11月)	☐ 泉北高速鉄道車内広告による救急広報を実施(9月) ☐ 祭礼時に臨時救急隊を編成(10月)		
	後期 (～3月)			
2025 堺市基本計画	該当する 施策	2- (2) かかりつけ医から高度医療までつながる地域医療体制の充実		
	寄与する KPI	—		目標値(2025年度) —
未来都市計画 堺市SDGs	最も貢献する SDGsのゴール	ゴール番号 3	すべての人に健康と福祉を	
	寄与する KPI	—		目標値(2025年度) —